丹後の足元探検隊
宮津天橋高校 フィールド探究部

▶第１話◀

復活させよう川あそび

― よさのみらい大学「川づくり講座」が原点 ―

皆さん、丹後は好きですか？　私たち宮津天橋高校宮津学舎フィールド探究部は、丹後の魅力を探す活動をしています。丹後には豊かな自然と、風土に根ざした仕事があります。それを探究する楽しさを多くの人に届けたくて、私たちは広報紙連載を企画しました。第１話は「川づくり」。きっかけは、与謝野町内で開催されたワークショップです。一緒に学んだ者として、私たちには皆さんと実現したいことがあります。

人も自然も守りたい

私たちが生まれた平成16年は、台風23号による豪雨で野田川の堤防が壊れ、流域に大きな被害が出ました。あれから18年。河川改修が進み川幅が広がりましたが、その影響で砂がたまり魚が減っています。「よさのみらい大学」で、川づくり講座が開催されたのは令和元年9月。内容は、サケの産卵地がある野田川の後野地区と支流の岩屋川で、石と土のうを積んで魚を呼び戻すワークショップでした。流れに勢いが戻って川底がふかふかになり、そこでサケが産卵する姿も見られました。参加した高校の先輩が「これを大手川でやりたいなぁ」と話していたのを覚えています。

大手川親水公園の再生

私たちが通うのは宮津天橋高校の宮津学舎。校舎の横には大手川が流れていますが、野田川と同じように台風23号の影響で河川改修が行われ、流れが単調になって土砂がたい積しています。中流の福田地区には「親水公園」がありますが、草木が生い茂って立ち入ることはできません。水深は浅くて足首ほど。深くてひざ丈ほどで遊ぶにはもってこいです。「ここを再生させて子どもが遊べる場所にしよう！」と思い草刈りを始めました。汗だくでカマを振るっていると、地元の方々が草刈り機を手に集まってくれました。そして、与謝野町で講師をされた滋賀県立大学の先生に来てもらい、石と土のうで単調になった流れに緩急を生み出し、いろいろな生き物のすみか作りに乗り出しました。また、草を刈った砂州にはスコップで溝を掘り、エビやメダカも住める池にしようと試みました。

地元の方からは「昔のアユはおっきかったでぇ」「今はおらんがフナも釣れた」という話を聞き、私たちも魚を捕らえました。下流でコイやスズキの幼魚、中流ではアユやウグイ、上流には京都府指定の絶滅危惧種であるアカザもいました。府の調査と比べると河川改修の前後で魚種の割合が変わっています。生き物の変化から川の健康状態が分かると気づきました。

私たちが社会人になっても遊びに行きたいと思える大手川にしたい。そのために私たちの思いや活動を後輩たちに引き継いでもらいました。親水公園は放っておけばまた草木に閉ざされます。手入れを続けてみんなの遊び場にしたい。みんなで取り組む川づくりはとても楽しく、そこで遊ぶのはまた違った楽しさがあります。でも今のような少人数ではなかなか完成に近づきません。一緒に笑って川づくりをしませんか？

地元の方と親水公園の再生作業を進める

←川づくりを始めるきっかけになった「よさのみらい大学」の川づくりワークショップ（岩屋川）。石や土のうを使うことで、川の流れに勢いが戻り川底がふかふかになります。

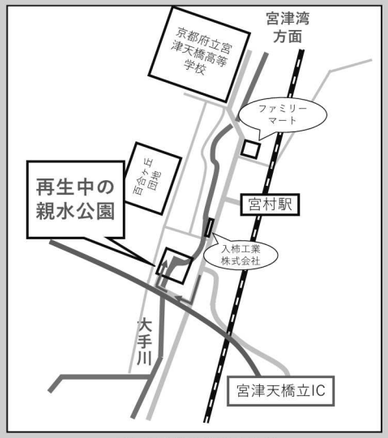
魚を増やす技を学ぼう

佐野　颯栄
（３年・加悦中）

私は旧与謝小４年生のときに命の授業で野田川を遡上するサケの一生を学びました。みんなで新聞を作り回覧板で「サケが帰ってきたら知らせて」と呼びかけたところ、漁協に勤める方から本物が届き、とてもワクワクしたのを覚えています。それから毎年秋になると野田川にサケの遡上を見に行くようになりました。このような体験の中でいろいろな人と出会い、命の大切さ以外にも川の魅力を知り、川にはまだまだ可能性があることを感じました。川で遊ぶことが大好きだったこともあり、私は今大手川で活動をしています。

同級生には魚が大好きな友達もいます。「魚が増える川の作り方、知っとるか？」と言ったら、きっとやってみたくなるはず！　そんな人にぜひ大手川に来てほしい。夏には草刈り大会や川遊びイベントを企画する予定です。川を入り口として互いに学び合い、丹後が生物の多様性と暮らしの安心を両立していける地域になるとよいなと思っています。

次回は「丹後体験ツアー」です。お楽しみに！



再生中の親水公園の地図

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。私たちの活動についてご意見をお聞かせください。どんな意見でも構いません。以下の二次元コードからご回答いただけます。

第１話は、佐野颯栄、橋根琉伊、安達比呂、家城天優、荒木翼が担当しました。